

三十四回蒼天句会 今月の一句

令和七年八月十四日 兼題…花火、又は自由

涼しさや心にあまるものは捨て

公子

麦藁帽押さえ仰ぐ観覧車

婦紗子

涼風や句碑を辿りて偕楽園

賢一

道すがら音なく上がる遠花火

繁一

大きさの順にサンダル海の家

孝志

単発の紺の大輪揚花火

洋一

蝉時雨ピクリとうごく犬の耳

信江

海望むデッキで乾杯遠花火

静江

秋暑し「砂の器」と「点と線」

鎮夫

蒼空に煙の木霊昼花火

国祥

能登復興キリコ先立て祭来る

隆彦

隅田川橋を連ねて大花火

重子

新橋や男の日傘華やかに

朱美

対岸の二ヶ所はなやぐ遠花火

紹子

川風に二人よりそう遠花火

久恵